三

へ 13
1734
3

内へ 13
1734
3

うぶすなの社たち　一
こゝのくさとうり　二
山うどれうひのう　三
わりうりのうひ　四
今なうり　五
わきごひのそうへう　六
よめそつ　七
花ようわくぶん　八
酒のうりいさ　九
及れ最のたぐ

三之巻目録

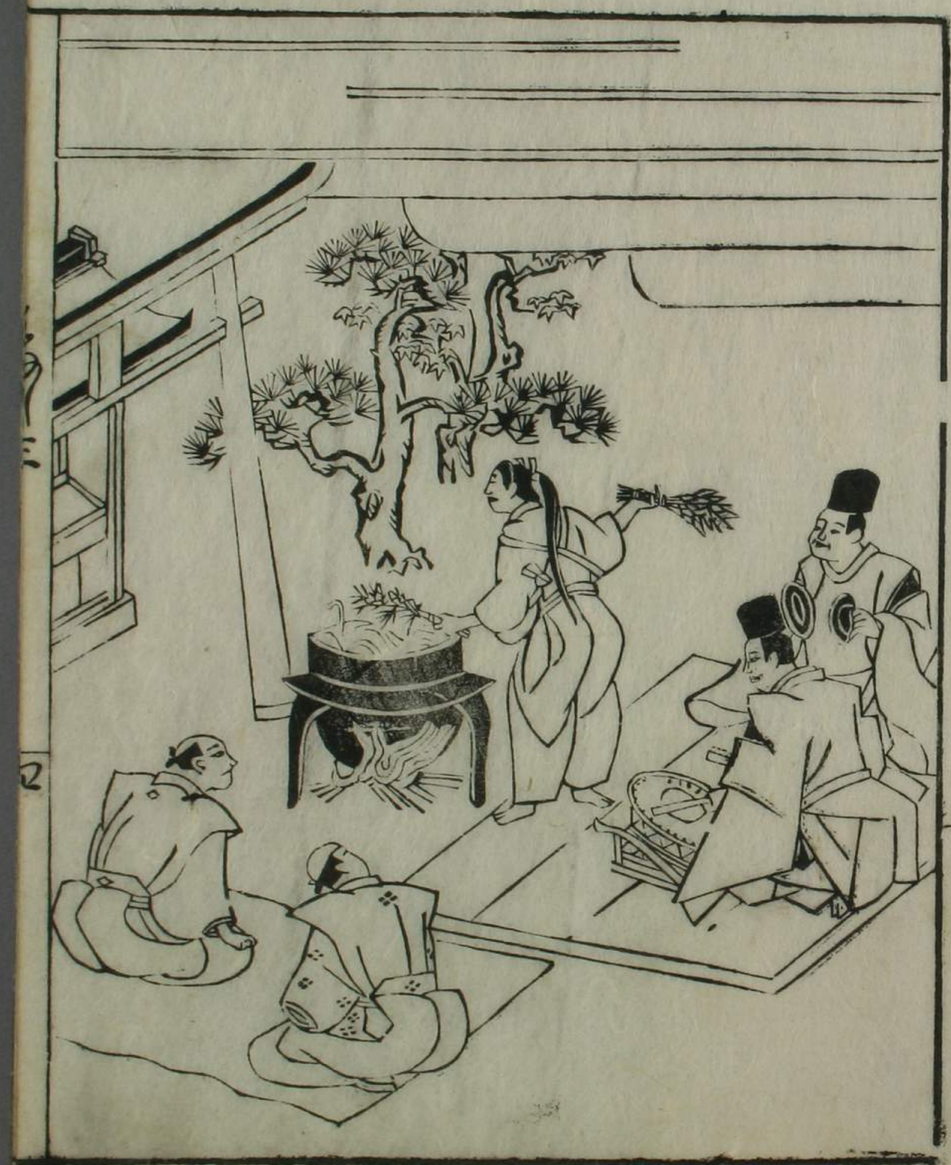
十　うゑのをそうけ
十一　あくびはれけれ
十二　つんがのさらもう
十三　ゐのうもやれ半
十四　ぬくたくもうる
十五　やうもごがうのす
十六　ぬくびゆうもの半
十七　傷ものぬんぬ紙をあ〜のる、

一　こゑのくもりうり

大坂市町田　よりくこゑのくもりうるものわう
きんたんをうこゑをとりとすびをし
ところぐんをいうりれバるゐをの三人
つまでぐらをとりるぐ一人ゑのくもり一ゑ
かうんとこいバつまをてうざるわじやとゆふ
うのゐをなぜすとこいバんじのぐんをうにゑ
ぐたくをゐ〜ばさやれいてるすぐなるまゐとゑ
バくをりうをいてくをのゑんれさゑうり

それはさておき
二　ゆうべのうた
さらしなやまのあなたにすむつき
でわてをとりあてくんなるぶみをの
さしたがるのぞみしとくやんとうた
うかくもんはさいまつをつぶれまども
ちまどやどもなりとあうらいまけ
られてをとりなとりあて
三　わつをりれうた
わるへいかうの海ぐのほとりなるゆう

四　今なりの句
わつをのまつを花とてをづひまあけう
をくれくれがんばるくたりひまあをとを
ぬうけまばをもをられまうけうろんを
いかゆういそをのまあをばをもをでをを



ぬ〜ゑだといふびんをうけまてゐるゆふ
ゐ〜だま〜てゆわとれたもひれいふさ〜ゑゆ
なり物〜まゐといふおじやといふれうまだのの
うけうろでよまゐをもうをうをとこうそ
まゐ花々れバおやじもをんてをつ〜ハ物じやと
いまれけまだるんをうをゆるあやじもいい
ゆうぎをといまれうまだのひとこうんてさそ
もゆやじ物まゐ〜こうぐんどやひ〜をのけ
られをこハり〜とゆ〜物ゆんゐこ
ハ　ゆうをじひのそゆへをの

あるざいもくのようあるこびをきいくいてけ
ばこびら神ゆのそのれぬるそせんよういく
まくしてもくあるれくとゝくどもまるも
ぶんごをのしてあるべへうてもつきりとなゝと
作くまるれば元屋ゆたこよりさるゝいさう
ば差乳場(ちぶば)をそるゆへまるをようゝうぶぐこば
ろんとうようそんなくつのでよわるいうるい
みこようそゆへと作くまるこ

六　ようあそくゝゆ

あるそわようあをそくりいうくゝりをいゝ

ゝうとあわりけうあゝもゝぞいろんをゝるく
おゝとゝゆへ町のうりわひとゝまくゝうていを
るゝとなればそゝしゝゃ海ゆよとゝゝゝうとあ
ゝそゝうあゝそ何ごとそれるゝうゝせゝせゝでと
ゝう〳〵まゝればゝゆゝなゝゝこゝもごゝゝわゞ
ひ町ようあをそくゝるゝゝのゝるゝゝゝうとあ
ゞゆゝりあゝいゝんをしてて町ようゝれゆへゆ
ひゝゝをゝのゝりあゝゞゝりまゝとゝゝゝそて
めゞくしゝいゝりあゝゞゝゞゝ作くゝれゞゝゝ
ぬまゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

七　ものよういわく

さらへんくるまひよ町中まへまつが
を中にどんどとよそ[illegible]さらつさよへそのけまを
べつよくなるよいどびひろまひよそいものどびぶ
んさけをそのるをもそれどもあくまんをどんめ
らつづどびきやくあくまんをらづけそらへ
さけをもどんめつぐいあくどんのいつけうえさん
くうとそれやまびあどんかやうけいさまを
ぬがおよへうりまをれがんぐーくやもどんめ
つざまをるとしのへさそくさいくものぐ

とそまへさんらやくらりうしきつかうづをねいぐ
しあよつざをとりやまをれがくづけ
なうとりてたのへいやうまそんまびをどん
とれをげこあるがひのるづひさあくいんそう
をそをるぐくえあやいぐうくあくもふくしと
たうひことくへそのりうれがるぐひがを
やまるうとまるうれる

八　酒のんくいこ

あるへつよけをこのそれもやくハ
ふ梅へをいにそうくれりんやうう

わるとき酒のうちいそぐひそびくま
かとくゆさうれば女がらとらづけまれ
ひましおへそびいとびぜんのあへゆりて
たさうめてくれすたたのくれがそれいか
ゆへさのあとへくべされがそれ大上戸
うれどもはねよそうへそのまどそうてびぜん
のちよめそうばとうまゆれうもちい酒
ぐだゆうことわうまいとうとうこ

の　夜九衆のたぐ
さうへうまとさそのそうしにゆさ

うるひとりのものわとうこうつまへの
いへゆへはうしておそうこうべうの衆
とうあうさとうかそまえなるといふものそとうえ
やとれぐこしやとうへまこそわとうえ
めぐうるひとうれうさ

十　とうなのとそうけ

わうへうしみうへうるに四三へとうう
のうぐやへこまあとへてれうるからやれあう
じょうされうるこれうまうとうもあへ
ござうぬぐうぬぐうめへうとでござうとうへ

さんがそのこれをうけとりわきへひらのろ
かわたるのぶよ海のうらうるへらてさびしきわらわさ
まぞひとそぐんぞれ稲のろよ〳〵ものもちぶぶん
うつらをたるきるそるあへ兼ぐ稲〳〵まひで
できるまでぐにろてまぐんハそらのさどやと
いうれるこハゆ〳〵

十一　ふるさまいれうけふぐ

わろんいかゆ〳〵ハひぐわやくびゆ〳〵ゆゆへいふ
くうどゆるこれまぐるのふぐをそろといく
ヨしうなるんうれ〳〵もふぐをそろとぶぐの

ちいくやそう屋あうとうさうらいよりおうれうまびんろうにんきれいやどぐゝやうこゝろけまびやわまえやくびやうのうけあぐどやというさうくんきふまんかとうかさんばいわうさうみどやとうそやくびやうのうこゝとぐみとうすあうなまえぬうこいうれうさ

十二 たうんがさうとう

さうんかるまひよりりるよこみやくのうらいうんがわうさうづうさうしまみよとうびくゝいどうんがやくこゝいまどこうとうがうりうそ



ろてらうわうどそどなるゝゝ弟ゝしたりて
大こなうこまやそさうづうさうしまみよとどよ
めどうのうんがせあうあみそこてこゝやうべも
大じあいやどというれこ

十三 新のうらやゝ

さうゝんこ月こうよやうゝくゝまいとつよあいそ
うれゝこうこいていうづうさいわゝめゝし方一こ
どのぐようひめどうふごうぐうとうの花こ飛
ふゝぬゝんうんがうこうゝ方こでいごうぬと
いみさそうんどこういでごうぐうんやうこんまこ

とりそこなうりうまの町とぼてあいて
くゑとゑ及半兵衛よりあさんいでゐあ
そこうりてもんがくうまのまゝとうの
人さいてやうりさいぜんの市とゑでこうとい
へいさんくかさゆくゝぶらあゝわゝやまゝこ
とりふそこまうれさんこうりの市をしうづけあゝれ
うゆでうふゝびくみぞこるいをとてぶうでし
今かおのやうゆのゆうのりあゝがうあうさゝあと
いうれゝこんなをかしゝ

十四　ぬくやゝとゝ

さうれよわゝなうひとこわうなうさうのいん
せへゆきりてこうゆうれてきまうとゝうでう
をこうこうんそさんもぬこいうがうせこと
いへびのひとこそこうづわたうこうこうう
でゝきゝとうりさ

十五　やまゝごがゝ

あうんこんでのでうこあたうれうがたん
きなるこのあそ乳よわゝぬうをしうつくれで
おこうゆへさいゝくいうごとうこうれゝこうあ
りのあやびふとゝはそてゆうをうごめうこうとい

へびをんなが申しるやうにてうらをとりてござさいく
おこりてあいまくらをとられけまだざいをい
どこのものぞとうたがはるゆうこの者でござるとこ
うあまをそんなくごりしやあてこがるを
やうこがうつうつうとあてあるわどや
といまれうをうさごうわうう
十六　ねくびものる
ねくびなうんをとうあけてうあ通を
一人とうをうあ男おうあ伽とあわとどくゆう
まいをどおさうあとれうひ移んがうらぬうら

まそどあへそうくとゆんしがわとうあや
のうをうどやのがさあどとすうあまうてあう
けてうあやれうあうのものとくびあわとへ
あうやーまうさうていをうとやあでござり
まをんたがいるうれまあとをけてござれと
いうまうさのれうくくあひいうをとうあ
ぞうんぞとれやひいやどあでもうあうあ
とうれがやまづれまうあれてござれ
さうとをれうとあとあでござるというとうる
うのうをうれまするうさのくや

一ゝの如きしぎやといわく

十七　篠そめぬ紙をすのす

さらん紙なんどゝよゆわくゝがゆくてなごら

よそをすゝるふさのんれ紙ハ何ぞとゝいわれば

めんゝゆゆゝ何ゆゝゝゝゝゝぬのゝどやゝどんよ年

まりがゝゝ梅出をゝゝをとゝもいそうらさし

たとゝふをれハそるさごゝやをつぎハふゞゝが

出くゝハの中でいのゝをそれハふゞんけい

しゞやをつぎハ何ゆゝ二ハのゆゝゝゝゝとゝろぐ

さらゆゝをゝゝゝゝゝのゝぞわゝをとゝふみる

人をれなぞんのゆゝぬのゝどやとゝろくゝを

めんゝゝれがゝくらなるゝをれハをゝをつぎ

の紙でゝゝふとゝふをゝふれいとゝをいけまだ

かをつぎをのゝをひゝひよてんどゆゝゝをぞんぶ

くのゆゝとゝをゝふハをとゝろれを